

高大 接続改革を追う ▶▶ 第17回

「高大接続改革を追う」のコーナーでは、高大接続改革に関するトピックスと、各大学の個別選抜の取り組み等を紹介する。

11月1日に文部科学省から2021年度入試における英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」の導入を見送ることが発表された。本誌が発行された頃にはもっと多くの情報が出ていると予想されるが、11月号では11月1日の記者会見の内容等をもとに、導入見送りの概要と今後の予定についてまとめた。また、10月24日までに各大学から公表された2021年度入試に関する情報のうち、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の「国語」の記述式問題の利用状況などもお伝えする。

各大学の個別選抜における多面的・総合的評価に関する取り組みは、金沢大学を紹介する。金沢大学は2021年度入試より、後期日程を廃止するほか、新たにKUGS特別入試、超然特別入試などを導入し、入試制度改革によって教育改革を加速させることにより、独創的な大学をめざしている。

CONTENTS

Part 1

◆ 高大接続改革のトピックス p51

Part 2

◆ 金沢大学における取り組み p54

- ・ 金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）に基づく教育改革を実施するとともに、2021年度入試から入試を改革
- ・ 後期日程を廃止し、個別試験の配点比率を60%以上に
- ・ 多面的・総合的な評価を行うKUGS特別入試を新規実施

Part 1

「大学入試英語成績提供システム」導入見送り 新学習指導要領が適用される 2024年度入試から導入予定

11月1日に2021年度入試における英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」（以下、システム）の導入見送りが、萩生田文部科学大臣の記者会見で正式に発表された。その数日前から新聞で「導入延期」に関する記事が掲載されていた。大学入試センターの英語認定試験「共通ID」発行申込み当日の導入見送りの発表であった。これを受けて、大学入試センターからは「共通ID発行申込み」を中止する旨が公表された。既に発送していた場合は、簡易書留郵便にて返送される。

今回、導入延期に至った理由として、経済的な状況や居住地域にかかわらず等しく安心して受験できるような配慮ができていないことが挙げられていたが、導入についての懸念は、今に始まった話ではない。高大接続改革で英語の資格・検定試験の導入が決まった当時から指摘されており、今年9月10日には、文部科学大臣宛に、全国高等学校長協会（全高長）から、延期及び制度の見

直しを求める要望書が提出されていた。

今後は、新学習指導要領下で初めて実施される2025年度入試に向けて、文部科学大臣の下に検討会議を設置し、今後1年を目途に結論を出す意向が表明された。民間の資格・検定試験の使用の継続については、「そのことも含めて抜本的に見直しをしたい」と、今後の方向性に含みを持たせている。同時に、大学入学共通テストの記述式問題は実施する意向であることと、システムの延期は決めたが、読む・聞く・話す・書くの、英語4技能をバランスよく身につけ、伸ばす方向性は変わらないことも強調されている。

大学入学共通テストの国語記述式の利用方法

大学入試センターから公表された資料によると、国語の記述式問題の成績の扱いは、

- ・ 小問の成績は、内容面に関する評価を段階 a、b、c の3段階で表示することに加えて、解答の書き表し方に関する評価を*で付記する。
- ・ 大問の成績は、小問の成績を踏まえ、A、B、C、D、

<表1> 2021年度入試 国公立大一般選抜 大学入試共通テスト 国語記述式 得点換算表

段階別評価を点数化して利用する場合、「配点」欄にはマーク式と記述式の配点（満点値）を、「総合評価／換算点」欄には大問の段階別の得点を記載。

大学（学部）	配点		総合評価／換算点					備考
	マーク式	記述式	A	B	C	D	E	
帯広畜産		※						※国語全体の満点の2割
札幌医科	200	40	40	30	20	10	0	
北海道	200	20	20	15	10	5	0	
弘前	200	40	40	30	20	10	0	
岩手県立	200	20						
東北		—	—	—	—	—	—	点数化して合否判定に用いることはせず、合否ラインに同点で並んだ場合、記述式問題の成績評価が高い者を優先的に合格とする
秋田		※						※国語全体の満点の2割以内
山形県立米沢栄養	80	20	20	15	10	5	0	
茨城県立医療	80	20						
筑波	200	40	40	30	20	10	0	
筑波技術（保健科学）	100	20	20	15	10	5	0	
筑波技術（産業技術）	160	40						※国語全体の満点の2割
宇都宮	200	40	40	30	20	10	0	
群馬	200	40						
群馬県立女子（文）		※						※マーク式の配点の1割
群馬県立女子（国際コミュ）		※						※マーク式の配点の2割
千葉	80%	20%	20%	15%	10%	5%	0%	配点の割合は国語全体に対してのもの
東京医科歯科								点数化してマーク式に加点。ただし、第1段階選抜ではマーク式の得点のみを活用
東京学芸	160	40	40	30	20	10	0	
東京工業	200	50	50	38	25	12	0	250点を200点に圧縮して使用
一橋	200	50						第1段階選抜ではマ：記を160：40で利用、合否判定には学部ごとに定めた配点を利用
横浜国立		20%	20%	15%	12.5%	10%	0%	配点の割合はマーク式に対してのもの
上越教育		※						※国語全体の満点の2割
長岡造形	80	20						
新潟		※						※国語全体の満点の2割
新潟県立		※						※国語全体の満点の2割
公立小松		※						※マーク式の満点の10%程度
福井県立（経済）		—	—	—	—	—	—	点数化して合否判定に用いることはせず、合否ラインに同点で並んだ場合のみ合否判定に利用
山梨	200	20	20	15	10	5	0	
信州	160	40	40	32	24	16	※	※総合評価Eを分割し6段階で評価する（E1:8点、E2:0点）
長野	160	40						
岐阜県立看護								記述式の総合評価を点数化し、マークシート方式の得点に加点したものの合計を100点に換算
静岡県立		※						※国語全体の満点の2割程度
愛知教育	200	40						
名古屋工業	200	20	20	15	10	5	0	
名古屋市立（医、薬、総合生命理学を除く）		※						※国語全体の満点の2割上限
名古屋市立（医）	100	25	25	20	15	10	5	
名古屋市立（薬）	80	20	20	16	12	4	0	
名古屋市立（総合生命理学）	80	20	20	15	10	5	0	
三重	200	20	20	15	10	5	0	
京都工芸繊維		—	—	—	—	—	—	共通テストと個別学力検査の合計点で同点となった場合に活用
京都府立	80%	20%	20%	15%	10%	5%	0%	配点の割合は国語全体に対してのもの
大阪府立	80%	20%	20%	15%	10%	5%	0%	
神戸市看護		※						※国語全体の満点の2割程度まで
兵庫教育	200	40	40	30	20	10	0	
兵庫県立	80%	20%						配点の割合は国語全体に対してのもの
岡山	180	20	20	15	10	5	0	
広島		※						※国語全体の満点の1割
広島市立		20%	20%	15%	10%	5%	0%	
山口県立	200	50	50	40	30	20	0	※社会福祉一前の記述式の配点は100点
愛媛	180	20	20	15	10	5	0	配点は200点満点の場合
高知工科	160	40						
北九州市立（文（比較文化—後を除く）、外国語（英米を除く）、国際環境工）	200	50						配点は250点満点の場合
北九州市立（文—比較文化—後）	100	50						
北九州市立（外国語—英米）	200	10						配点は210点満点の場合
北九州市立（地域創生）	95	5						
北九州市立（経済、法）	200	20						
九州工業	160	40	40	30	20	10	0	
福岡教育	160	40						
福岡女子	80%	20%	20%	15%	10%	5%	0%	
長崎		※						※国語全体の満点の2割
大分	200	40						
大分県立看護科学	80	20						
鹿屋体育	160	40						
沖縄県立看護	200	50						
沖縄県立芸術		20%						配点の割合はマーク式に対してのもの
名桜		※						※国語全体の満点の1割程度
琉球		※						※国語全体の満点の2割程度

※ 2019年10月24日現在、河合塾調べ ※掲載内容は変更される可能性があります。最新情報は各大学公表資料でご確認ください。

Eの5段階で表示する。

・各大学には、大問および小問の成績が送付される。となっている。各大学の公表状況を見ると、共通テストの国語を利用する大学については、概ね記述式の利用を表明している。

<表1>は、10月24日現在の国公立大の利用状況をまとめたものだ。「国語」のマーク式と記述式の配点(満点値)のほか、記述式の総合評価の段階別(A~E)の換算値を記載している。それを見ると、現時点で具体的な配点を公表している大学は多くはない。

公表している大学では、5段階の総合評価をそのまま得点換算するケースがほとんどであり、配点はマーク式部分200点に対して、配点割合で1~2割とする大学が多く、多くは40点または20点満点とし、1段階10点または5点分の配点とするパターンが目立つ。信州大は総合評価Eを2段階に分割し、6段階で評価する。これはE評価のうち、小問の評価がすべて無解答に近い「c」の場合のみ0点(E2)とし、他のE評価(8点)と差をつける形としているからである。また、東北大や京都工芸繊維大では、合否ライン上の志願者だけ利用する。具体的には、東北大では、段階別評価を点数化して合否判定に用いることはせず、合否ラインに志願者が同点で並んだ場合、記述式問題の成績評価が高い志願者を優先的に合格とする。京都工芸繊維大では、大学入学共通テストと個別学力検査の合計点で同点となった場合に活用する。

一方、記述式部分の成績利用を行わない大学もある。青森公立大、山形県立保健医療大、長岡技術科学大、三重県立看護大、宮崎県立看護大はすでに利用しないこと

を公表している。私立大では、早稲田大は政治経済学部が一般選抜では共通テストを必須としたが、国語は記述式部分を利用しないと公表した。

2021年度私立大学入試

2021年度入試において私立大の入試がどのように変わっていくのかを、現在までに公表された資料から見ていく。

一言でいうと、私立大の対応は、既存入試継続型と入試改革積極型に分かれているといえる。<表2>の一番左は、現行入試を踏襲する形で、大きな入試変更はないと見られる大学である。慶應義塾大、東京理科大、同志社大などが該当すると考えられる。

それより右に記載している大学は、これまでと比較すると、入試を変えようとしている大学であるといえる。

共通テストの活用では、現在、センター試験を利用していない学習院大や上智大が共通テストの利用を表明。早稲田大は国際教養、政治経済、スポーツ科学の3学部で共通テストの成績が必須となる。ただし、商学部では、現在、センター試験利用方式があるが、共通テストは利用しない。個別試験については、記述式問題の導入・拡大を方向性として示す大学が多く見られるほか、青山学院大や早稲田大(政治経済)では、新たに総合問題を課す予定だ。

このように、私立大においても2021年度入試の様相が見え始めてきた。河合塾でも引き続き、大学入試情報サイトKei-Net等を通じて、情報提供を行う予定である。ご活用いただきたい。

<表2>私立大学の2021年度入試公表状況

	既存入試継続型	共通テストの活用	個別試験の変更
大学例	<ul style="list-style-type: none"> 慶應義塾 中央 東京理科 東京電機 愛知 南山 同志社 立命館 関西 近畿 西南学院 など 	<p>【新規活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習院 上智 	<p>【総合問題等の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> 青山学院(個別学部日程) 早稲田(政治経済)
		<p>【共通テスト必須化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早稲田(国際教養、政治経済、スポーツ科学) <p style="text-align: center;">↑ ↓</p> <p>【共通テスト利用方式廃止】</p> <ul style="list-style-type: none"> 早稲田(商) 大阪樟蔭女子 	<p>【記述式問題導入・拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉工業:「思考力・判断力・表現力」を測る記述式試験を検討中 日本女子:記述式を多く出題することを検討 摂南:前期A・B・後期日程の一部科目で記述式解答の導入を検討 関西学院:一般方式全日程の国語で、表現力を問う記述式問題実施 松山:記述式導入、一般選抜を2科目型から3科目型に変更 <p>【小論文・作文導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 流通経済 大正

※2019年10月20日現在、河合塾調べ

特別入試導入や後期日程廃止などの 入試制度改革によって教育改革を加速させ 独創的な大学をめざす

金沢大学



柴田正良 副学長

金沢大学は、人材育成のための独自の教育方針「金沢大学<グローバル>スタンダード」(KUGS)を2014年度に策定した。KUGSは、共通教育、学士課程、大学院課程の教育の全てを貫く基本方針だ。この基本方針に従って、2016年度から約300科目あった共通教育科目を整理・集約するなど着実な教育改革が進んでいる。そして、その改革は入試制度にも及ぶ。

中でも2021年度入試から導入される「KUGS特別入試」は、高大接続プログラムへの参加を前提とした金沢大学独自の入試方式だ。KUGSに基づく教育改革と「KUGS特別入試」を中心に、柴田正良副学長(教育担当理事)と岩見雅史高大接続コア・センター長(学長補佐)にお話をうかがった。

金沢大学が育成する人材像を示す KUGS

KUGSは、現在のような社会の大きな変革期に、リーダーとして多くの課題に立ち向かっていくことができる人材を育成するための基本方針であり、2014年度に策定された。柴田正良副学長は「KUGSは、金沢大学憲章で掲げる教育目標を実現するため、金沢大学が育成する人材の具体的な姿を提示したものです」と話す。

KUGSが示すスタンダードは次のように5つある^(注1)。

スタンダード1：自己の立ち位置を知る

科学的世界観、批判的思考力、歴史的洞察力、地政学的洞察力、規範意識

スタンダード2：自己を知り、自己を鍛える

フィロソフィー、アイデンティティ、健康増進、心身の成長、克己

スタンダード3：考え・価値観を表現する

論理的構成力、物語力、言語表現力、感情表出力、創造的形象力

スタンダード4：世界とつながる

共感・歴史観、日本文化・金沢文化理解、異文化理解、国際関係の理解、国際コミュニケーション力

スタンダード5：未来の課題に取り組む

想像力・創造力、情報分析力、総合的判断力、蓋然性、持続可能性

KUGSは、共通教育、学士課程、大学院課程の教育の全てを貫く基本方針となっており、教育改革もこの基本方針に従って行われている。2016年度には、約300科目だった共通教育科目を、5つのスタンダードで整理・集約し、30の共通教育のGS科目とするなど、人材育成の基盤となるカリキュラム改革もKUGSに基づいて行われている。

多岐にわたる入試制度改革の背景には 現状の大学序列化への強い危機感

こうした教育改革を進める金沢大学だが、入試制度もKUGSに基づいて改革を進めている。柴田副学長は「入試の『在り方』を変えることで、大学の『かたち』を変えていきます」と話す。具体的には、金沢大学独自の価値観とスキルを重視する入試を行うことで、これまでとは入学者の質を変えることをめざしている。「入学者の質や心意気を変えることに挑戦しています。学生が変われば大学は変わります。そのために入試は非常に重要です。KUGSは大学全体のアドミッション・ポリシー(以下、AP)とも言えます。そのKUGSが目標としている人材になろうとする高い志と強い気概を持った入学者を期待しています」(柴田副学長)

金沢大学が教育改革とともに入試改革に力を入れてい

(注1) KUGSの詳しい解説は、<https://www.kanazawa-u.ac.jp/education/distinctive/global/kugskaisetsu>を参照。

るのは、現状の日本の大学序列化への強い危機感があるからだ。「日本の大学は、さまざまな意味で、東京大学を頂点とした富士山型の序列構造になっています。しかし、富士山型では、各大学は同じような取り組みをしているだけで、これは非常に脆弱な仕組みです。各大学それぞれが強みと個性を持ち、私が八ヶ岳型と呼ぶように多くの峰がある、いわば多峰型の高等教育の構造を作ることが必要です」と話し、各大学が群雄割拠で競い合う環境が日本の高等教育の発展には必要だと言う。そして「八ヶ岳型の中の1つとして、金沢大学も名乗りを上げたい」と意欲を見せる。

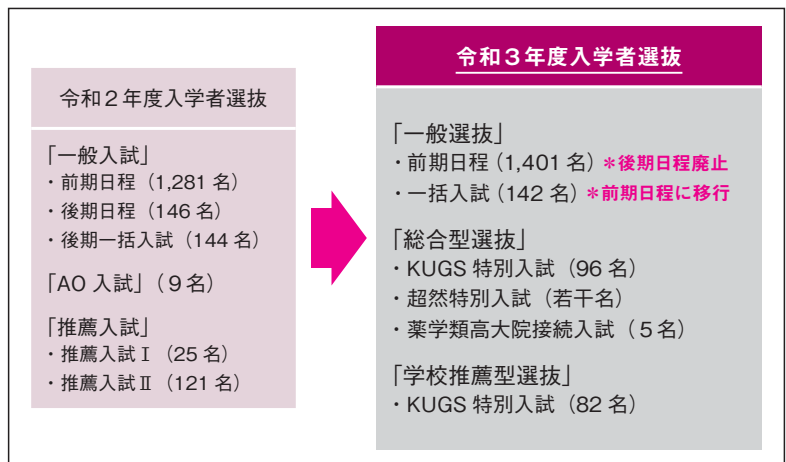
後期日程を廃止

個別試験で独自性と優位性を際立たせる

入試制度の大きな改革は2021年度入試から実施される<図表1>。1つは、**後期日程の廃止**だ。後期日程を廃止することについて、柴田副学長は「後期日程は受験機会の拡大のために設定されていますが、現実には偏差値の上位大学の併願先としての役割を果たしています。これでは富士山型序列の徹底になっているだけと言わざるをえません。我々は、金沢大学こそ第一志望という学生を多様な形で受け入れたいと考えています」と話す。なお、現在は後期日程で行われている、学ぶ内容や所属する学類を入学後に決められる**一括入試は前期日程に移行**する。

そして、入試制度改革で今後の鍵となるのは、個別試験だと柴田副学長は言う。「金沢大学の独自の入試方式を作り、そこで独自性、優位性を際立たせることが必要です。従来の序列化からの離脱を可能とするような“物差し”は、個別試験しかありません」と説明する。柴田副学長は、これまでは知識の記憶とその再生を主眼とする試験方式という単一の「物差し」が、あたかも大学全体の実力を測るかのような誤解と序列化を生んでしまっていたが、本来は多様な評価軸があってもよいはずだと考えている。そのため、他の「物差し」を独自に開発し、それによって金沢大学の独自性を際立たせ、さらに入学者の多様性も確保したいとの考えだ。

<図表1> 金沢大学 2021 年度入試概要（予定）



*後期日程廃止に伴い、一括入試が前期日程に移行。帰国子女、国際バカロレアおよび私費外国人留学生入試は引き続き実施。現時点での人員。詳細は大学のホームページ・入学者選抜に関する要項をご覧ください。

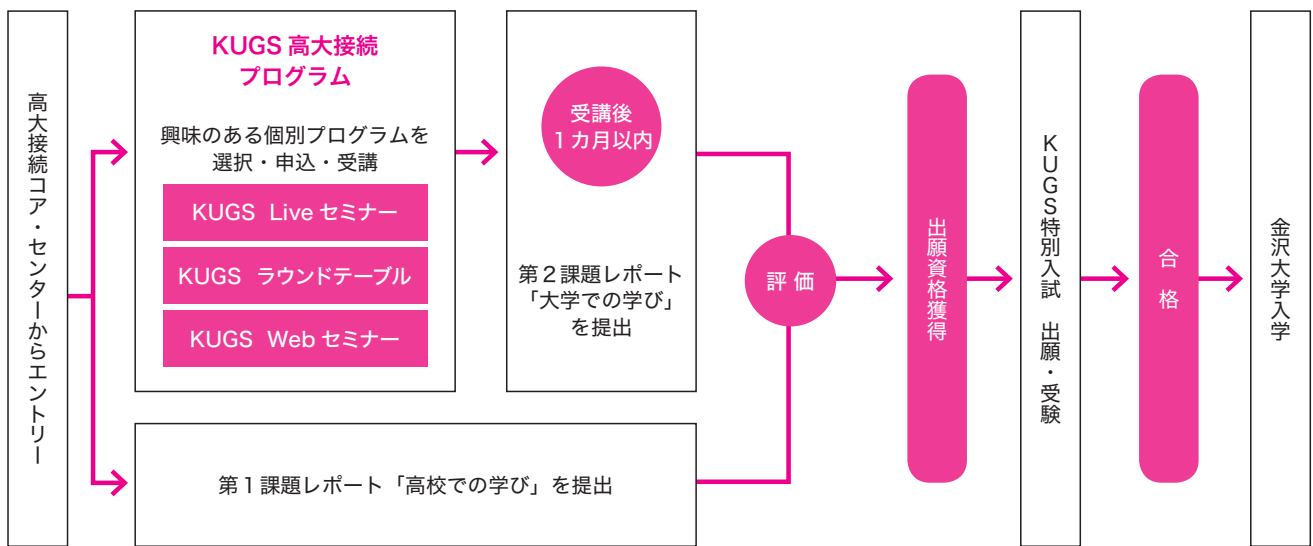
さらに2021年度入試では、**個別試験を60%以上の配点比率とする方針**だ。この配点比率を徐々に上げて、いずれは大学入学共通テスト（以下、共通テスト）を資格試験化することも視野に入れている。

また、「入試の方式と内容は、APから導出されるべきです。そして、入試問題はAPを体現したものであるべきです」とAPと入試との整合性を重視し、「APを基盤にした、これまでとは異なる独自の“物差し”を社会に提供したい。例えば、『総合科目』などの独自の新しい受験科目を課すことなどを検討しています。金沢大学独自の“物差し”が社会に受け入れられることは、金沢大学の人材育成の考え方が社会から評価されることでもあり、金沢大学ブランドの確立にもつながります」と話し、KUGSに基づいて磨きをかけた人材を社会に送り出すとともに、日本の高等教育を多峰型の構造に転換していく意義を熱く語る。

高大接続プログラムへの参加が必須の KUGS 特別入試

さらに2021年度入試から、新しく始まる方式が**KUGS 特別入試**だ。これは、一般入試では測ることが難しい受験生の資質・能力を、時間をかけて見極めるための多面的・総合的な評価を行う入試といえる。KUGS 特別入試に出願するためには、金沢大学が提供する「KUGS 高大接続プログラム」を受講して、提示された課題に対してレポート等を提出し、評価を受ける必要が

<図表2> KUGS 特別入試 出願資格獲得から入試までの流れ



(金沢大学の新特別入試パンフレットより)

ある<図表2>。

「KUGS 高大接続プログラム」は、対面参加型の Live セミナー、ラウンドテーブルと Web 視聴型の Web セミナーの3つがある。高校生は、複数あるプログラムの中から、興味・関心に応じて、自由に選択して受講する。プログラムは人文社会科学系から、理工系、医薬保健系など幅広い分野が通年で開講されている。また、Web セミナーは、金沢大学のサイト上で公開されているため、場所を選ばず、いつでも受講が可能となっている。

入試自体は 2021 年度入試から実施されるが、「KUGS 高大接続プログラム」は既に始まっている。これについては「入試の年度になってから、一気に複数のプログラムを作ることは難しいため、十分な準備期間を取っています。入試に関わることなのでプログラムを担当する先生方とも綿密な打ち合わせ・準備が必要です」(柴田副学長)と学内の協力を得ながら丁寧に進めていると話す。

また、高校生が複数回参加できる仕組みについて、岩見雅史 高大接続コア・センター長 (以下、センター長) は「我々は育成型の入試をめざしています。どのプログラムを受けても、そこで基準を満たせば KUGS 特別入試の出願要件を満たしたことになります。できるだけいろいろな種類のプログラムを用意して、高校時代に幅広く学んでもらい、それぞれでレポートを提出してもらいたいと考えています」と話す。

生徒が提出したレポートは、高大接続コア・センターで評価を行い、コメントを付けて受講者にフィードバック

クする。場合によっては再提出を指示することもあるそう。岩見センター長は「高校生と大学が連携し、そのつながりの中で高校生が成長して、視野を広げ、学びの幅も広げて、しかも深めてもらいたいと考えています。そのため、高校1年生、2年生の時から参加してもらいたいと思います」と「KUGS 高大接続プログラム」が特別入試のためだけでなく、まさに高大接続の役割を持つと話す。

柴田副学長も「できるだけ多くの高校生に幅広く受けてもらい、金沢大学のさまざまな特色を知ってもらいたい。オープンキャンパスでは伝えきれない、研究の深みや先生方の人柄に触れて、じっくりと進路選択をしてもらいたい」と高校生と大学のコミュニケーションを大切にしているプログラムであることを強調する。

高校生が提出する課題レポートは KUGS の5つのスタンダードによるルーブリックで評価

各学域・学類などが提供するプログラムは、それぞれの専門性を背景にしているが、高校生が提出する課題レポートでは専門的な知識等は求めている。岩見センター長は「プログラムの概要や、そこで何を学び、何を課題として感じたか、今後その課題とどのように向き合っていくのか、といった内容で1,000字から1,400字で記入してもらいます。専門的な知識などをレポートで求

<図表3> KUGS 高大接続プログラム 課題レポート 評価基準（一部抜粋）

KUGS	レベル4	レベル5
A. 自己の立ち位置を知る能力	倫理観と科学的知見に基づく視野から自己の位置や使命を把握できている。	高度な倫理観と科学的知見に基づく広く深い視野から自己の位置や使命を把握できている。
B. 自己を知り、自己を鍛える能力	自己の能力を認識し、将来の目標を明確化して、目標実現に向けて努力することができている。	自己の能力を客観的に認識し、将来の目標を明確化して、目標実現に向けて十分に努力することができている。
C. 考え・価値観を表現する能力	自身の考えや価値観を論理的に構成して表現し、他者に伝える力がある。	自身の考えや価値観を論理的に構成して明確に表現し、的確に他者に伝える力がある。
D. 世界とつながる能力	自身の持つ文化への関心を持つとともに異文化を理解し、異文化の人々と共生・共存する意欲をもっている。	自身の持つ文化を理解するとともに異文化を理解し、異文化の人々と共生・共存する能力を持っている。
E. 未来の課題に取り組んでいく能力	広い視野から総合的に未来を予測し、未来の課題に取り組んでいく意欲をもっている。	広い視野から総合的に未来を予測し、未来の課題に取り組んでいく能力をもっている。

※レベルは1～5まであり、4、5のみを抜粋して掲載。

(KUGS 高大接続プログラム 課題レポート 評価基準より)

めているわけではありません。ルーブリック<図表3>を基に評価経験が豊かな高大接続コア・センターの担当者が、客観的な立場で評価することができる仕組みになっています」と話す。課題レポートを評価する基準などのルーブリックは、KUGSの5つのスタンダードに基づいて作成されている。また、高大接続コア・センターのホームページでも公表されている。

高校生が提出するレポートは課題レポート「大学での学び」に加えて「高校での学び」レポートもある。岩見センター長は「高校生は日頃、部活動や学習活動などでさまざまな経験をしていると思います。そこでの学びについても書いてもらいます。2つのレポートを複数名で評価し、基準を満たした場合に修了認定証を出して、それをもって出願資格としています。高大接続という観点からも『高校での学び』と『大学での学び』の両方が必要です」と話す。

柴田副学長も「高校の時に経験したさまざまな学びをどのように特別入試に組み込めばよいのか、今後も工夫をしていきたい」と継続的な改善を考えている。

なお、KUGS 特別入試には、「総合型選抜Ⅰ」「総合型選抜Ⅱ」「学校推薦型選抜Ⅰ」「学校推薦型選抜Ⅱ」の4つの選抜があり、Ⅰは共通テストを課さない特別入試、Ⅱは共通テストを課す特別入試だ^(注2)。口述試験も行われる予定で、柴田副学長は「口述試験の配点を高めていけば、従来の入学者層とは異なった層になると思います。この特別入試で入学した学生には、大学生活のさまざまな場面で他の学生をリードするような存在になってもらいたい」と新しい入試制度に期待を寄せる。

ところで、2021年度入試からは、さらに特異な才能を評価する「**超然特別入試**」も行われる。超然特別入試

は共通テストを課さない特別入試であり、^{エーリンピアード}「**A-lympiad 選抜**」と「**超然文学選抜**」の2つがある。金沢大学が主催する数学コンテスト（日本数学 A-lympiad）と文学コンテスト（超然文学賞）で入賞実績があり、出願要件を満たす場合は出願資格が与えられる。詳細は大学のホームページをご覧ください。

**入試改革と教育改革が関連
成績評価の改革にも全学的に取り組む**

金沢大学では、授業科目の成績評価の改革にも取り組んでいる。柴田副学長は「ペーパーテストやグループ討論などについて、評価方法、基準、比率などを定めてルーブリックに基づいて成績評価を行います。これは大学の成績評価に対する社会の信頼を得るためです。本来は学生の能力をどれだけ伸ばすことができたかが大学の教育力の1つの指標となりえますが、それを主張するためには厳格な成績評価を行う必要があります」と各科目の成績評価を、基準を明確化したルーブリックによって行うことの意義を説く。また、「入試を変えて、よい学生が入学したとしても、旧態依然とした授業では意味がありません。アクティブ・ラーニングを全ての授業で行い、学生に活きた能力やスキルを身につけさせたい」（柴田副学長）と入試と大学教育の改革がリンクしていると語る。

独自の入試の開発を通じて、大学の在り方も変えるという金沢大学の挑戦は、表面的な公平性や客観性を重視し、1点刻みの評価をしやすい入試方式にとらわれた、従来の入試に対する考え方への挑戦でもある。

(注2) KUGS 特別入試の詳細は、<https://www.kanazawa-u.ac.jp/examination/event/koudai>を参照。